

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1273300317 | | |
| 法人名 | 株式会社 ユニマットそよ風 | | |
| 事業所名 | 四街道ケアセンターそよ風 | | |
| 所在地 | 〒284-0012 千葉県四街道市物井1596-4 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年2月28日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所 | | |
| 所在地 | 千葉県千葉市稲毛区園生1107-7 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年3月23日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然があふれていて、窓からは季節に合わせた花や動物が見られます。入居者様はよく外を見られ「鳥が来たよ」「何の花かしら？」などおっしゃっています。ご近所には近くに小学校があり、時々子供達が遊びに来てくださいます。小学校にも運動会などのイベントに参加させて頂いております。グループホームの理念が安全で楽しく家庭的にです。リビングには季節を感じていただける様な装飾をしております。3月は雛人形を飾っておりました。食事やおやつ等は出来ることは利用者様と一緒に作りみんなで作ります。季節に合った食事を提供すると皆様大変喜ばれています。ひな祭りでは、桜ちらし、ひし形ゼリー、はまぐり汁を提供いたしました。日々皆様笑顔で毎日過ごされるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の「大丈夫、そよ風があるから」の基、ホームで「安全で楽しく家庭的に」という理念をつくっている。管理者も職員も、日々のケアに理念を照らし合わせて支援をしており、利用者の要望には、いろいろな方法を考えて実現するように努めている。家族との関係も良好で、訪問時の会話や運営推進会議の中でも意見を聞くようにしている。また、今回の外部評価で実施した家族アンケートは全家族から回答があり、家族もホームに関わってほしいという姿勢が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | GHのスローガンが「安全で楽しく家庭的」です。これを実現するため日々職員と話し合いを行なっております。 | 理念は分かりやすく、職員は自分の行動に照らし合わせるようにしている。利用者の機能はだんだん低下しているが、その中でも理念に沿って何が出来るか具体的に考えている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事(餅つき、豆まき)、近所の学校の行事(運動会)参加や近所への買い物へ入居者と行き顔を少しでも覚えてもらおうとしています。 | 地域の住民に回覧で案内をし、「救命講習」を実施した。また、管理者が講師となり毎年「認知症講座」を開催している。この他、近隣小学校の全学年生徒の見学や実習を毎月受け入れるなど、地域とのつながりを大切にしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 教育機関の実習生を受け入れを積極的に行なっております。定期的に救急講習を実施し地域の方々にも呼びかけています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の際に評価の結果を報告し意見交換、質疑応答などを行なっており今後のサービスに反映できるようにしています。 | 家族の出席しやすい土・日や行事と並行して行うなど、意向を尊重し年4回開催している。テーマをもって実施し、活発な意見交換をサービス向上に活かしている。議事録は家族に送付している。 | 地域からの参加が得られていない状況である。地域密着型サービスでもあり、地域との関係性は欠かせないと思われる。今後の働きかけが期待される。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 年に4回行なっております、運営推進会議では市の担当者に参加して頂き意見交換を行なっております。今年から四街道のグループホームの職員が集まり意見交換なども行なっております。 | 市で新たに発足した「グループホーム連絡協議会」に参加し、行政などの情報交換の場としている。また、日頃から窓口に出向いたり電話で相談をするなどの関係性ができている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止委員会を設置しており、全体会議の際に勉強会を開いております。又、本社や他のセンターからの情報を随時ノートなど使用するなど職員に情報共有に勤めております。 | 身体拘束の弊害について、各種研修で繰り返し周知徹底に努めている。具体的に事例を教材にして、マニュアルと照らし合わせながら拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待についての勉強会を行なっております。また職員同士、日々意見し虐待防止の徹底しております。今後身体拘束廃止研修を受講したいと考えています。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度を利用される入居者も増えてきており、職員全体で制度について理解を深められるよう会議や研修等で情報を共有、勉強会を開き学ぶ機会を増やしています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前に家族に契約書を読んで頂き、契約時には契約書を全て読み上げ、説明してから同意を得ています。また、本人様や家族様からの質問や疑問を1つ1つ納得頂けるまで詳しい説明を行っております。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 来所された際ご質問やご意見など頂いた際に時間や環境を配慮して頂いております。又運営推進会議などにて入居者や家族の意見や疑問を吸い上げております。契約時には、苦情・ご意見窓口として行政機関の連絡先も記載しており、家族にも伝えております。 | 家族のホームに対する関心は高く、来訪の際や運営推進会議、各種アンケート等で多くの意見・要望を得ている。これらの意見に対し、ホームも真摯に答えている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 普段から職員とのコミュニケーションを大事にし、話し合いの機会を設けるなどの対応をしております。又、ミーティングや全体会議等の話し合いの場を作り職員同士の意見交換をしています。 | 職員は、気付きや意見を日誌等に記入し、ユニットごとやグループホーム全体の会議で検討・共有している。管理者は意見を出しやすい環境をつくるよう心がけており、各種の委員会から出た意見なども反映するようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 定期的に個人の面談を実施しベースアップやスタッフ個々の悩み、意見を聞いています。働きやすい環境を作れるよう日々努力しています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人職員には研修期間中、管理者や経験豊富な職員が個別指導に当たって育成しております。毎月勉強会を開き職員一人一人のスキルアップを図っています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 四街道市にあるGHと交流会を実施し、そこで得た情報を持ち帰り現場職員に情報をおとし情報共有をしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 計画作成や家族、職員からとの情報交換、入居者の施設見学、実調などを行いご本人とよく話して聞き取りを実施しております。また、普段の生活リズムを把握し安心した関係、環境作り努めております。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前にご本人やご家族の困っていることなど、耳を傾けご本人らしい生活を提供できるよう協力体制や信頼関係に努めてまいります。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 施設見学や待機申し込みの際ご本人の状態を把握しご本人にあった生活が出来るような環境などのアドバイスをしています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共同生活の中でご本人が望む生活をするためにもコミュニケーションを通しご本人様と交流を持ち信頼関係を築いております。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 来所された際や電話など、ご本人様の状態を伝えることでご家族様も把握することが出来ます。また、行事などのイベントのお知らせや家族会等の参加をして頂くことで、ご家族とご本人様との絆を深められる環境を作り信頼関係を大切にしています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族、友人、親戚が来所された際、ゆっくりと過ごせるような環境を作っております。又、外出の制限がないため好きな日にご家族様とお家に帰ることも可能です。 | 家族、親せきや友人の来訪があれば、職員も会話に加わったりお茶を出すなどして歓迎している。また、以前から通っていた書道教室に行きたいという利用者には送迎をするなど、これまでの関係性が途切れないように支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士が上手くコミュニケーションが出来るよう職員が間に入り楽しく生活が出来るよう支援しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院先や医療関係施設に転移された入居者や家族共に関わりを持っています。今後の方針や家族からの相談など電話などで話す機会を持つように努めております。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の中でのコミュニケーションを大切に、一人一人をよく観察、傾聴しております。なるべくご本人様の意向に添った介護をしております。意思疎通が困難な方には以前の生活歴や家族に相談し情報収集しております。 | 日常のコミュニケーションの中で、利用者の生活歴や趣味を話の糸口にして思いや意向の把握に努めている。聞き取った言葉などは個別日誌に記録して、できるだけ実現できるように支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人様やご家族様とのコミュニケーションを図りその方らしい生活を出来るだけ把握し過ごしやすい環境を作っております。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様の状態の変化、様子を把握して申し送りの際に職員同士で話し合い共有しています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族様の意向やご本人様の希望を聞いたうえで職員に報告しミーティングなどで話し合い計画を作成しています。 | 介護計画は、モニタリング表や個別日誌をもとにケアカンファレンスで話し合う他、面会時に聞き取った家族の意向などをもとにケアマネジャーが作成している。定期的な見直しの他、状態の変化に合わせて変更している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | その時に実際に話された内容を記録するようにしております。又職員がどのような声かけをしたのかを記入することで新たな気づき出来るようにしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状態やニーズに応じて、柔軟に対応できるよう職員体制を整えています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のイベントの参加(夏祭り・餅つき)や消防署立会いの避難訓練、行方不明時の警察との連携などが取れるようにしています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人様やご家族様が希望している受診先を把握し優先的に事故等あった際搬送して頂く様勤めています。 | ホームの協力医が利用者の主治医となっている。2名の医師が訪問診療に来て健康管理をしている。専門医などへの通院は家族に対応を依頼しているが、場合によってはホームの職員が同行している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員は入居者に些細な日常生活の変化に築き施設内の看護師と連携を図り健康管理などを相談し支援してまいります。また、訪問診療とも、さらなる専門的な知識によって早期の対応、適切な受診、看取りを受けられるように充実させています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | お見舞い行った際には担当の看護師等と情報交換、相談をしたりと連携、情報共有、交流を図っています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合や終末期のあり方についてはご本人様とご家族様と話し合い事業者で出来る限りのことを十分に説明しながら、方針を共有し、チーム支援に取り組んでいる。 | 運営推進会議でも大多数の家族参加のもと、重度化や看取りに関しての話し合いを数回行っている。医療処置を希望しない場合には、ホームでできる限りの対応をしたいと考えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時や事故の際は、職員は管理者と連絡を取り指示を受けたり、緊急マニュアルに沿って対応しております。Ds・GHの職員は救急講習を受講しています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回職員火災訓練として、避難訓練を行っています。そこで、消火器訓練や訓練後の指導を受けて次回改善できるよう会議等で話し合いを行っています。 | 年2回、消防署立ち合いのもと、1階のデイサービスと合同で通報、初期消火、夜間想定などの訓練を行っている。実施後は消防署員の指導や気づきを次回に活かせるよう話し合っている。水や米など食料の備蓄もしている。 | 夜間の災害発生も考えられ、その場合一人でも多くの人出が必要になると思われる。万が一の場合の協力体制について、近隣住民と具体的な話し合いを持つことを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者一人一人の尊厳やプライバシーを守り、日常の言葉遣いやトイレ誘導、オムツ交換、入浴など状況に応じた適切な対応に努めています。 | 年1回の接遇マナーの研修で、挨拶や言葉づかいなどについて話し合い、職員間で共有している。トイレ誘導時の声かけはプライバシーに配慮するなど、基本を大切にしている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員が日頃からご本人の意見に耳を傾け、実現できるように心がけています。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人の生活リズムやペースを大切にしてい入居者の思いや希望に沿った生活が出来るように支援しています。業務優先にならない様職員同士、注意しています。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時の着替えの等、本人の希望や相談に乗りながら季節に応じた選択が出来るよう支援しています。又、毎月理美容によるヘアカットなどの機会を設け、髪染めやパーマなどおしゃれを楽しんで頂いています。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人一人の力に合わせ調理や盛り付けおしぼり作りなどを手伝って頂いています。誕生日には本人の希望をできるだけ取り入れ、おやつには必ずケーキを提供しています。季節や行事のメニューも考え提供しています。 | 話題を提供しながら、職員も利用者と一緒に食事をしている。また、時には外食で気分を変えたり、BGMを流すなど、食事が楽しめる様に支援している。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 基本的に毎日の食事は栄養士によるバランスの取れた献立をもとに提供しています。食事、水分チェック表により一人一人の状態を把握し支援しています。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後のうがい、歯磨き等を行っております。介助が必要な際は、声掛けや介助を行ない清潔を保持しています。必要に応じて訪問歯科利用、定期受診を実施しています。義歯着用者は毎日の義歯洗浄剤での支援を行なっています。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し一人一人の習慣に合わせて声かけや誘導を行なっています。また自尊心を傷つけないよう常に心掛け、支援しています。 | 排泄の記録をもとに声かけをして、日中はトイレでの排泄を支援している。夜間帯はポータブルトイレの使用、パット交換など一人ひとりの状態や希望に合わせて支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を作り排泄リズムを把握しています。コントロールが必要な際は主治医に相談し指示のもと支援しています。毎日の体操や、オリゴ糖や寒天ゼリー、イージーファイバーなどを召し上がって頂き自然排便を促しています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | お風呂は基本的には毎日沸かしております。体調を配慮しながら職員と一体一で入って頂いております。希望を伺い入浴剤などを入れて楽しんで頂けるよう支援しています。 | 浴室には個浴の浴槽が左右に2つあり、仲の良い利用者同志で入ることもある。湯船につかって歌を歌ったり、季節のゆず湯やさくら湯、入浴剤を入れて楽しんでいる。入りたくないという人にも声かけの工夫で、最低週2回は支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間は特に決めておりません。一人一人の生活のリズムを作り休んでいただいております。なかなか休めない方は眠くなるまでリビングにて職員と一緒に過ごされます。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主治医が薬を決め、薬剤師の薬管理が中心としています。職員は常に薬の意味、増減や変更の申し送りを行っています。薬についての勉強会も行いました。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者一人一人あった家事を手伝って頂き生活の楽しさや、やりがいを感じていただける様支援しています。散歩やパズルなど頭や体を動かして体力の低下を防止しています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 外出の希望があれば職員同行するようにしています。気分転換が出来るよう家族にも協力してもらっています。季節ごとのイベントは毎月計画しています。 | 天気の良い日は午前、午後に分かれて散歩に出かけている。また、毎月のイベント外出の他に、日用品の買い物などで個別の外出も支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的には現金はお預かりをしています。買い物の際職員と出かけて、入居者に状況に応じ支払ってもらいます。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状や暑中見舞いなど毎年入居者に一言書いてもらっています。電話のご希望があれば支援しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節を感じて頂けるよう季節に応じた装飾を入居者と一緒に作成しています。常に室内の温度や湿度に気をつけ風邪予防を行っています。 | リビングにはゆったりとしたソファを置いて、寛げるようにしている。また、季節の花や大きなカレンダーで、季節や曜日などを利用者を感じ取ってもらえるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 仲良く暮らせるよう職員が間に入りコミュニケーションのお手伝いをしています。歌を唄ったり入居者が笑顔で過ごせるよう努力しています。入居者は各居室に自由に行き来しています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族に相談し家具を用意してもらっています。入居者が家で使われていた物を出来るだけ使用していただいています。新しく購入する物を出来るだけ入居者と買い物に行き選んでもらっています。 | 部屋を間違えないように、それぞれの居室の入り口にはネームプレートをかけてある。入居時に、馴染みのものを持って来てもらうように説明しており、仏壇や使い慣れ家具などを置いて、安心して過ごせるような居室になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 入居者一人一人あった家事を手伝って頂き生活の楽しさや、やりがいを感じていただけた様支援しています。 | | |